

## ヒストリカルノート

By Curtis H.Baer

コラム by David Hughes

**訳注：**イギリス連邦軍は大隊規模の部隊に「連隊」という名称を付けることがあり、ユニット上では大隊規模となっていてこの記事で「連隊」と書かれている場合があります。

もし、ドイツ軍がシリアとイラクをわずかな空軍と陸軍、そして国内の反乱で手に入れることができるというならば、その時は我がイギリスも軍隊を送り込むことを躊躇する必要はない。また、失敗によって政治的危機に陥ることも心配無用だ。この決断は我々が完全な責任を負うものであり、貴殿の活動に対して協力を惜しむことはないだろう。

1941年5月21日、ウィンストン・チャーチル首相からアーチボルド・パーシヴァル・ウェーヴェル将軍へ送られた電報より

『エクスポーター作戦』はヴィシーフランス政権の支配下であったレバノンとシリアを、イギリス連邦軍が軍事的に占領しようとして、1941年6月から7月にかけて行われた戦役をテーマにしています。この戦いは目立たないものではありませんでしたが、軍事的には大きな意義を持った作戦でした。1941年前半は第二次世界大戦において特に重要な時期であり、それは地中海地域でも同じでした。オコンナー将軍とウェーヴェル将軍によって、イタリア軍がエジプトとキレナイカから駆逐された（コンパス作戦）ことから、ドイツ軍の最高司令部はロンメル将軍をアフリカに送り込みました。伝説の「砂漠の狐」です。この積極果敢なドイツの将軍は薄く伸びきっていたイギリス連邦軍を叩きのめし、トブルクに立てこもった守備隊を除いて、彼らをエジプト国境まで追いやってしまいました。その後の出来事は、ウェーヴェル将軍をさらに悩ませます。ドイツ軍がイタリア軍を支援してユーゴスラビアとギリシャに侵攻したのです。チャーチルからギリシャ軍を支援するよう命じられたウェーヴェル将軍は、乏しい兵力から救援を送りました。イラクでは、ラシード・アーリー・アル＝ガイラーニー首相と彼の「ゴールドデン・スクエア」と呼ばれた4人の大佐が、イギリスの支配から独立しようとクーデターを起

こしました。クレタ島を占領していたドイツ軍は、このイラクの反英クーデターを支援できる位置にありました。そこで彼らは、航空部隊をバグダッドに送り込もうと計画しました。ただし、クレタ島とロードス島を基地とするドイツ軍の航空機は飛び立った後、バグダッドまでの間のどこかで一度、給油のために着陸する必要がありました。その第一候補が、レバノンにあるラク飛行場だったのです。これら全ての状況は、イギリスにイラクと南イランの石油に脅威を与えていました。チャーチルは、ヴィシーフランスがドイツを支援することを絶対に許さないと断言していましたが、ウェーヴェル将軍は慎重でした。というのも、ヴィシーフランス軍に対して投入できる兵力が、彼には見当たらなかったのです。彼は、今の現状では兵力をあまりに展開しすぎていると感じていました。

ウェーヴェル将軍はこの懸念をロンドンの戦時内閣に伝えましたが、それは拒絶されました。チャーチル首相は、イギリスはドイツ軍によるレバノンとシリアの占領を阻止するために軍事的行動を必要としており、ドイツとその代理であるイラクがイギリスに対する石油の供給を妨害することがあってはならない、と告げました。それどころか、ウェーヴェル将軍は北アフリカと中東のイギリス連邦軍司令官の地位を、オーキンレックに交代させられたのでした。

**訳注：**直接的にはバトルアクス作戦（6月15日～17日）の失敗によって、ウェーヴェル将軍は6月20日に解任させられました。一方、このゲームで扱うレヴァント地域の作戦は6月15日頃に一度停滞した後、20日には再び進捗し始めました。

ウェーヴェル将軍は命令に従い、限られた部隊だけで最善を尽くすしかありませんでした。彼がこの作戦に投入できたのは、オーストラリア第7歩兵師団の2個旅団（第21旅団と第25旅団だけで第18旅団はトブルク守備隊の一部になっていた）とインド第4歩兵師団所属のインド第5旅団、砂漠と東アフリカの戦いのベテランで新しくパレスチナに到着していた2個の自由フランス旅団、それにいくらかの独立大隊だけでした。加えて、コマンド部隊が1個大隊ありましたが、これは南レバノンの海岸で他の部隊がラッタニ川を渡るのを支援するために上陸作戦を行うことになっていました。ただまずいことに、この作戦を開始した時のイギリス連邦軍には、わずかな軽戦車と限られた航空支援しかありま

せんでした。しかし、イギリス海軍が艦砲射撃で支援してくれる約束になっていました。

当時のオーストラリア軍は全員が志願兵からなっており、第一次世界大戦の時のオーストラリア軍「ファースト・オーストラリア・インペリアル・フォース」の一部がガリポリとフランスで大きく名を挙げたのを模範として、「セカンド・オーストラリア・インペリアル・フォース」と名付けられていました。第一次世界大戦の時のオーストラリア軍兵士達の従軍と犠牲の記憶は大きく賞賛されており、ファーストとセカンドを結びつける政治的必要性があったのです。それはいくつかの方法で行われました——多くの部隊の大隊番号の前に「2nd」が挿入されていました。例えば、第2/16大隊のように、第一次世界大戦の時に従軍した大隊に合わせて部隊番号を付けられていたのです。わかりにくいものですが、他にも同じようなことが行われました。1914～1918年の間に5個の歩兵師団が編制されており、そのため新しく編制された師団には第6の名前が付けられたりしていました。

一方、ヴィシーフランス軍は、ルージャントイオム将軍の軍事的支配下にありました。彼の手元には約20個のフランス植民地歩兵大隊があり、その中には有名な外人部隊と現地レバノン人とシリア人民兵の8個大隊も含まれていました。これらの歩兵部隊は、植民地の騎兵3個大隊、現地民兵の騎兵4個大隊、それに数個の砲兵大隊に支援されていました。また、ヴィシーフランス軍はR35中戦車2個大隊からなる比較的強力な装甲部隊と装甲車2個大隊、それに第一次世界大戦で活躍したF17歩兵戦車による小さな訓練大隊を保有していました。ヴィシーフランス軍はイギリス連邦軍による介入を以前から予想しており、これらの部隊は前線に配置されていました。ただし、この戦役が始まった時点で使用可能な航空戦力はほんのわずかでした。ヴィシーフランス海軍は少数の駆逐艦と2隻の潜水艦を保有していました。

ウェーヴェル将軍は、このエクスポーター作戦を指揮する司令官としてメイトランド・「ジャンボ」・ウィルソン将軍を任命し、同時に三つの進撃路を進ませることにしました。海岸沿いにベイルートへ向かう